SCRC NEWS

センターニュース

October. 2007 No.7

知のパートナーとして期待

東栄町長　森　田　昭　夫

この三遠南信地域は、平成5年度から毎年「三遠南信サミット」を開催し本年で15回目を数えるに至っています。また、平成17年度には具体的な「災害時相互応援協定」を結ぶこともでき、県境を越えて、地域住民や経済界、行政が力を合わせ、圏域全体が一体となった地域づくり等に取り組んでまいりました。

圏域の悲願である三遠南信自動車道や第二東名高速道路も着実に整備が進んでおり、市町村合併により32市町村に再編されるなど、この地域を取り巻く環境も大きく変化しています。こうした中、行政や大学、経済界などが協働して現在取り組んでいます「三遠南信地域連携ビジョン」は、産学官が共通の認識をもって、この地域の将来像を描き、更なる圏域全体の発展と一体感の促進の大きな力になるものと確信しています。

大学におけるこれまでの一般的な現状は、大学がどのような知的及び人的資源を有しているのかという情報や、また市町村自身が大学に何を望んでいるのかという情報が、相互で共有されていなかったため、連携の糸口がつかみにくい状況にありました。21世紀の大学のあり方として、地域社会との連携の推進が提唱されていますが、愛知大学におかれましては、このような動きのはるか以前の設立当初から地域文化・社会への貢献を旨としてこられ、また、平成16年10月には大学内に三遠南信地域連携センターを設立され、行政や住民等との協働を軸にして、地域資源を活かした個性ある地域づくりを進めております。とりわけ、大学の「知」の力は、地域の診断や施策の処方箋づくりなどに力を発揮し、行政や住民が地域づくりを推進する大きな原動力になっています。

このことから、大学内の三遠南信地域連携センターを中心に、愛知大学と東栄町の間では行政レベル、住民レベルそれぞれにおいて、調査研究や人的交流を重ねてきました。そして、連携を一層促進し、協働により総合的な地域づくりを推進していくため、本年6月22日に包括的連携協定を締結いただき、町の「元気な地域づくり支援事業」に大学の「地域づくりアドバイザー」を派遣いただくなど一層の交流を進めているところです。

三遠南信地域連携センターは、地域研究・地域連携の拠点として本町をはじめこの地域にとっての知のパートナーとして大きな期待を寄せるところであり、大学と三遠南信地域の持てる資源を有効に活用し、一層の相乗効果が上がるように更に連携を深めていくことが必要だと思います。今後も、センターの持つこれまでの成果を地域に還元していただき、この地域の連携の拠点として、今後も益々ご発展されることを心より期待します。

CONTENTS

巻頭言……1
センター事業の取り組み状況……2
- 地域づくりデータベース事業

2006年度センター事業に対する評価…2
センター・トピックス……5
- 「一村一品」国際セミナー開催
- 東栄町、新城市、南信州広域連合と連携・協力協定を締結
- 全国学生まちづくりサミット
- 連携・協力協定締結記念シンポジウム
- 七郷一色ウィークエンドセミナー
- 三遠南信コミュニティカレッジ
- 東栄町地域振興アドヴァイザー派遣
- 公開シンポジウム「中山間地域の維持と活性」

サポーターの活動から……9
- 売木村活動
- アフタースクール事業

センター活動記録……10
編集後記……12

CENTER NEWS

センター事業の取り組み状況

地域づくりデータベース事業

事業責任者　蒋　湧

本事業は2005年度に発足し、今年3年目に入った。初年度のシステム調査、GIS（地理情報システム）コンテンツの基本調査を経て、昨年度には基幹システム構築を完成し、検証用GISコンテンツを用いたシステムの検証を行った。この4月からは、いよいよ本格的な研究と開発の段階を迎えている。

本年5月19日に開催された「GISデータベース構築研究プロジェクト」第1回研究会では、2007年度の研究活動方針について確認を行った。まず、GIS事業とGIS研究を分けて，GIS事業は、①基礎データの整備と基礎コンテンツの作成、②「学生地域づくり実験スペース」の発足と運用，GIS研究は、①GISデータモデルに関する研究（データベース技術との融合）、②時空間データ解析／表現に関する研究（数理統計、実証分析との関わり）、③地域づくりGISモデルの形成（地域づくりガイドライン（岩崎先生）、地域づくり評価システム（黍嶋先生）との連携）、④フィールドワーク用のGPS連携GISツールの開発、の4つの内容でそれぞれ進めていくこととした。

それにともないGIS研究体制は，テーマ別に①GISデータモデル研究グループ（世話人：蒋）、②空間データ解析研究グループ（世話人：平川）、③地域GISモデル研究グループ（世話人：西尾）、④GISツール開発研究グループ（世話人：湯川）のグループに分かれ、それぞれに分担しながら研究を展開することが確認された。

7月4日には、GISデータベース構築プロジェクト研究会の主催で、「GIS DAY in 愛大2007」が開催された。GISの基本知識や最新動向の説明、そして実際にGISを使った体験学習などが行われた。参加者は学生、院生、教員、社会人など多岐に亘り、盛況であった。

9月17日には、2回目の「GISデータベース構築研究プロジェクト」研究会が開催され、GISデータモデル研究グループと地域GISモデル研究グループのメンバーが出席した。今年度の基本データの整備と基本コンテンツの作成に関する事業計画として、以下の4つ事業内容を確認し、役割分担とスケジュール調整を行った。

①他事業と連携した、三遠南信地域における７地区に対する実態調査の実施
②三遠南信地域に関する基本データの収集
③収集したデータを構造化し、地域づくりデータベースとして整備
④調査結果をGISコンテンツとして加工し、WebGISにより公表

上述の事業にあわせ、今年度GIS研究の重点を、「Caseツールを利用したオブジェクト指向型のジオデータベースの構築」に置くことが確認された。

2006年度　三遠南信地域連携センター事業に対する評価

センターでは、2007年度前半に、学外のセンター会議委員による2006年度事業評価を実施した。その結果9名の委員より 評価が寄せられたが、以下はその結果を取りまとめたものである。

◎地域づくりデータベース構築事業

評価できる点	改善が必要と思われる点･要望点
・一般大衆がアクセスできる地域に関するデータベースを、公開で提供すること。 ・三遠南信地域の地域資源が、行政界によって分断されることなく、同一項目について、同じレベルで、しかも一体的に俯瞰できる点。 ・自治体にはデータのストックがないので有益であり、それを一般にも利用出来ることは評価できる。 ・地域資源マップ、集落マップは地域住民が地域のことを再認識するために便利と思われる。その活用が期待される。 ・基幹システムさらにはコンテンツの開発が計画通り順調に進められており、評価できる。	・「どのような人が、どのような目的でこのDBを利用するのか」の想定と、その目的に合致する使いやすさの検討が、不可欠と思う。 ・資源マップと集落マップを今後の施策の中でどう具体的に活用するかを例示いただきたい。 ・他の機関で取り組んでいるデータベースづくり（東三河地方拠点都市など)と連携･相互乗り入れ、あるいは重ね合わせが可能となるようなオープンな形でのデータベースシステムとなることを期待する。 ・「地域づくり活動サポーター」や「推進員」などによるきめ細かい情報提供なども必要であるので、データベース更新システムなど今後考えていくことが重要である。

（次ページにつづく）

評価できる点	改善が必要と思われる点･要望点
・地域のデータは、国勢調査などがあるが使いやすくまとめられてはいない。コンテンツの充実は今後の課題だが、データベースが構築されることによりデータへ利用度が高まると思われる点。	・住民参加により住民がより使いやすいようにする必要がある。 ・先進的な取り組みであり、可能な範囲で成果を早く公表することが、この事業のPRに繋がるのでは。 ・行政施策の立案などに活用されるコンテンツを構築して欲しい。せっかく時間をかけてデータを入力しても利用されないと意味がない。利用対象者に、どんなデータを必要としているかの調査を実施し、データベースの枠組みを決めるべきであろう。 ・早期にシステムの公開を望む。

◎学術的共同研究事業

評価できる点	改善が必要と思われる点･要望点
・「流域社会の風景」の出版を期待する。 ・シンポジウムや研究会が「里」「森林環境」「日常食」とテーマを設けたことは、参加者に分かりやすいと思う。 ・地域資源を研究によって掘り起こすと共に、公開での講演会や研究会を開催することによって成果を広く市民や地域に還元しようとしているスタンスは評価できる。 ・講演会、公開研究会のテーマは、地域の問題、地域の将来を考える上で重要なものであり、高く評価できる。 ・研究会が 6 回にわたり行われ、真剣な議論が行われたことがうかがわれる。 ・公開研究会が興味深く、報告書が待たれる。裾野を広げる役割をしているのでよい。 ・いずれも基礎研究として評価できる。	・地域づくり、地域力に特色のある地域を参考として紹介しては、と思う。 ・テーマ別の研究を進めることで、地域に住む人の物の考え方や意思の特色性が現れると期待する。 ・講演会、公開研究会の内容の要約版（解説版）が早い時期にホームページなどで公開されると、地域にもっと関心を持ってもらえるのでは。 ・事業横断的な合同研究会を増やしたほうが良い。 ・ガイドライン研究プロジェクトは展開が難しい。抽象化した概念づくりは必要あるのだろうか。 ・基礎研究を積み重ね、将来は、地域の自立につながる「三河学」のような方向性を持って欲しい。

◎官学連携事業

評価できる点	改善が必要と思われる点･要望点
・「地域経営評価システム構築のための基礎的調査業務」を含めた、「地域づくり・地域経営評価システム開発研究会」研究報告の出版が待ちどおしい。 ・行政とのネットワークを活用し、労力を要する中学生への幅広いアンケート調査を実施する中で研究報告書としてまとめられた点、またシンポジウムでの発表を通して、成果を地域と共有しようとした点は評価できる。 ・中学生の社会力に関する研究会報告書の内容は豊富であり、高く評価できる。 ・地域経営評価システム研究会が 5 回にわたり行われ、内容も充実してきた。 ・中学生の社会力という着眼点がよい。	・「中学生の社会力・職業意識」の研究については中学校教員などを委員に委嘱して一層の官側参加を促しては、と思う。 ・今後も自治体等の受託事業を積極的に受け入れ、事業展開を図っていくべきだと思う。 ・報告書をどう生かしていくか検討を要する。報告書（解説版）の要約版を作って普及しては。 ・GISデータベース、ガイドライン作りとの連携を充実すべき。 ・地域経営評価システム開発研究会の事業は、学問研究として分からない訳ではないが、“机上論”の色合いが強いように感じられる。評価システムが出来て、もし、評価が低かった場合、問題解決の道筋は見えてくるのだろうか。地域課題解決のためのシステム開発が望まれる。 ・豊橋技術科学大学、愛知大学の連携事業は各大学の持ち味を活かせば、いい結果が生まれるのではないか。豊橋には創造大学もある。高齢化社会、福祉を視野に入れると3大学の連携は将来の課題だ。領域によっては西三河の大学との連携を構築してもよいのではないか。

（次ページにつづく）

◎教育･人材育成事業

評価できる点	改善が必要と思われる点･要望点
・一般市民を対象に、流域圏という視点で地域を勉強することは、極めて重要。今後も継続拡大を期待する。 ・田原市の西馬草集落の住民からの聞き取り調査など住民の生の声を聞きながらの活動は、より現実性が高く市民参加が期待でき、関心も強くなると思う。 ・地域づくり、まちづくりの核となってもらえる人材の育成に努められている点（とよがわ流域圏講座）、大学生の地域貢献への意識の醸成に努められている点（地域づくりインターンシップ）は評価できる。 ・地域づくりアドバイザー制度が立ち上がり、18名の先生方が登録されている。地方分権時代をふまえ、地方の自主自立の地域づくり活動に支援いただけることは大変有益である。 ・とよがわ流域圏講座は高く評価できる。特に現場を見て議論することは意義がある。 ・インターンシップ参加者が前年の6倍以上であり、参加者の感想からも成果が感じられ、評価される。 ・講座の開催が地道な人づくりとなっている。流域大学の受講者が係わることで人材を育てることになっている。 ・いずれもユニークな活動で大いに評価できる。今後も継続して欲しい。	・流域圏講座や流域大学における人材育成の目標をさらに拡張し、多様な人材供給を目指すこととされたらいかがか？ ・観光ボランティアガイド、というよりは地域ガイド、「地域の案内係」としての講習会修了証や認定書を出すことを検討しては？ ・各地で行われる交流イベントの際の「応援団」として、都市住民の動員担当・接客係、案内係などとしての役割を負っていただくことも必要（山間地域のイベント主催自治体や住民との連携が不可欠）。 ・上記修了生等の「自主企画イベント」への大学としての認定・応援体制なども考慮に値するのでは？ ・上記講座などの修了後の、ボランティア活動や地域研究の成果を寄稿いただき、流域圏大学の社会への波及効果をアピールすることも必要である。 ・地域づくりインターンシップは参加希望学生のニーズ（どこで、どのようなことなど)を集約して、本センターの学外委員を交渉の窓口として活用すれば速度的にも成功度は高くなると思う。 ・卒業生の活かし方を検討すべき。活動の場を提供していくことが必要。 ・ある程度人材が育ってきた段階で、行政との連携を模索できないだろうか。地域の仕事をすべて役所が行う時代でなくなってきている。民間の地域づくりのプロが行政施策展開の後押しをしてもいいし、引っ張ってもいい。

◎その他全般

評価できる点	改善が必要と思われる点･要望点
・サミットへの参加など、幅広い情報発信や情報収集、あるいは官・民とのネットワークづくりに努められている点が評価できる。 ・三遠南信サミットでの住民セッションは3部構成で130名を超える住民参加があり、貴重な意見交換、交流の場となり、評価できる。 ・「だがしろう」はよかった。話題性もあり、再開が期待される。 ・三遠南信サミットの住民セッションは豊橋地域で初めての取り組みであったが、連携センターが実行委員会事務局としてとりまとめ、次回に繋がる成果が得られたことは評価される。今後のセンターの活動においても新たなネットワークとして期待できるのでは？ ・売木村受託事業などは、現地のニーズ（頼りにされている）が高いだけに評価できる。	・大学と地域社会の連携の中で、地域社会への人材供給機能が、最大の連携機能である。 ・卒業生に対するアフターケアと限定せずに、社会人一般対象の社会人教育サービスが大学と地域を連携する、もうひとつのねらい目ではないか。 ・卒業生の一般教養のフォローアップという狭い意味でなく、広いテーマを掲げ、地域社会の社会観、問題意識の拡大を目指すことは意味があるものと思う。 ・子育て･育児にかかる経験の交換、いじめ問題と教師・学校・親、社会人の「正義感」の問題、流域･水資源から産業問題、地域自治から合併･道州制問題、人口減少と外国人問題、人の死生観からホスピスまで、卒業生（社会人）の年齢階層にあわせたテーマ設定が効果的ではないか？ ・卒業生相互間の交流、地域の大学の音頭とりによる地域社会内相互の交流は、卒業生及び社会人の問題意識の拡張に効果的ではないか？ ・自主事業（共同事業を含む）と受託事業（金銭契約）は、性格や責任の度合いを異にすることから、しっかりと切り分けた上で執行されるよう要望したい。 ・サミット住民セッションは今後も引き続き行い、ネットワークづくりに生かしていくことが重要であると思う。また、とよがわ流域圏講座は7日間全ての出席が条件で参加できない人もいるため、短期の講座も可能であれば考えていただきたい。 ・学生が「だがしろう」を続けたくなるような環境（刺激）を用意することが必要かも。

CENTER

センター・トピックス

NEWS

「一村一品」国際セミナーが開催

本センターの地域づくりに対する取組みとも関わりのある「一村一品」（ＯＶＯＰ）の国際セミナーが、去る７月５・６日に、マレーシアのマラッカで開催された。ＯＶＯＰ国際セミナーは2004年に第1回がタイ・チェンマイで開催されたのを皮切りに毎年開催され、今回が4回目である。ＯＶＯＰと言えば、日本では大分（県）の名と切り離すことができず、主唱者の平松守彦・前大分県知事が強調されてきたように、中央集権化に抗して地方の振興をはかる切り札として考えられてきた。これに対して、海外では、中央政府の施策として展開されているケースが少なくなく、マレーシアについても、タイ、中国などと同様に中央政府の強力なリーダシップの下にSatu Daerah, Satu Industri〔ＳＤＳＩ〕（マレーシア語で「一地域一産業」の意）として2004年以来進められてきた。

会場のマラッカ国際貿易センターには、アジアを中心に15ヵ国・地域から千人を上回る専門家や活動家が参集し、1日目の7月5日には、ナジブ・マレーシア副首相、平松守彦氏などが基調講演を行ったのをはじめ、タイ、インド、中国、カンボジア、インドネシア、台湾、マレーシア、日本などの様々な事例が報告された。日本の事例については、関西大学の大倉雄次郎教授によるものと、大山農協理事長の八幡氏によるものとの2つが行われた。2日目は、マラッカ州のセリ・タンジュン村などの現地視察が組織された。

このセミナーに並行してＯＶＯＰ国際見本市も開催されたが（7月5日～8日）、主催者の発表で延べ3万5千人を上回る入場者があり、大盛況であった。各国・地域の産品がずらりと並べられた光景は圧巻と言う他ないものであった。

なお、セミナーの合間を縫って、平松氏を名誉会長、村山皓・立命館大学教授を理事長として創設された国際ＯＶＯＰ政策学会（ＩＯＰＡ）の理事会が招集され（佐藤元彦・本センター長も理事）、創設記念研究大会をこの11月22日に立命館アジア太平洋大学（ＡＰＵ）で開催することを決定した。

東栄町、新城市、南信州広域連合と相次いで連携・協力協定を締結

この6月には東栄町と、また7月には新城市と、さらに10月には南信州広域連合（南信州の15市町村からなる、地方自治法に定める特別地方公共団体で、連合長は飯田市長）と愛知大学との間で、相次いで連携・協力協定が締結された。いずれの協定も生涯学習、文化、福祉、まちづくり、産業振興など多様な分野で相互に連携・協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与することが目的として掲げられている。協定に盛り込まれた連携・協力事項を実施するために、いずれについても地域連絡協議会が設置され、愛知大学側のメンバーとして、センター長とセンター会議の幹事でもある豊橋研究支援課長とが参画している。大学として締結した協定ではあるが、今後の連携・協力事業の一つの柱は、センターがこの間これらの自治体と進めてきた事業をさらに展開していくことになる。

東栄町については、前号のセンターニュースでも紹介がなされた「元気なまちづくり支援」事業、新城市に関しては、三河コンベクションアカデミー関連事業（ウィークエンドセミナーなど）、また、南信州広域連合とは、売木村、飯田市、泰阜村などとのこれまでの連携実績をふまえたより広域的事業（セカンドスクールなど）での連携・協力が、当面中心となる。

これら以前には、愛知大学は豊橋市と同種の協定を結んでいるが（2005年）、この協定に基づいた連携・協力の体制づくりは、都市再生本部の「大学と地域が連携したまちづくり」先進事例に認定されている（全国で8事例）。今回の3自治体との協定についても、こうした社会的評価につながっていくような事業展開が求められる。

全国学生まちづくりサミット2007 in 豊橋

経済学部４年　片　野　晃　秀

2007年9月6日と7日の2日間にわたって全国学生まちづくりサミット2007 in 豊橋が盛大に開催された。このサミットは2006年11月に山形県酒田市の東北公益文科大学で開催された第一回目の全国学生まちづくりサミット、2007年2月に兵庫県西宮市の関西学院大学で開催された全国学生まちづくりフォーラムに続くものであった。今回のサミットは北は北海道から南は九州・熊本まで29の大学、150名近くの学生、教職員、行政や地域住民の方にお集まりいただいた。「つながる。つなげよう。学生の輪!!」というテーマの下、全国の大学間の連携、活動の内容や地域を越えた学生同士の連携、後輩たちへのつながりを目的として行った。初日は暴風警報が発令される中、愛知大学豊橋校舎で20の事例発表と交流会。2日目は台風一過の快晴の下、豊橋市街地でグループごとに別れてフィールドワークとグループワークを行った。この2日間無事に終了し、ほっとすると共に多くの参加者が「楽しかった」と満足して帰っていき、開催して本当に良かったと思う。また、三つの目的も大きく達成することができ、学生宣言にも充分に表れていると思う。

しかし、課題も多数残った。一つはサミット後の行動である。宣言文が取りまとめられてもそれが行動に移されなければ宣言の意味がない。ネットワークの構築は一部の大学と実現に向けて話を進めているが、宣言文に書かれたことを含め、このサミットで話し合われ、共有したことを各大学で着実に実行に移していってもらいたい。そして、一番の課題はこのサミットの定義付けである。全国から地域づくりを行っている学生や教職員が集まり事例発表や交流会、フィールドワークを行うイベントはこのサミット以外にも、あらゆる名称でいくつも存在する。開催することだけに意味があるのなら、多額の予算をかけて行うことに疑問を感じざるを得ないし、来年以降の他大学での開催も危ぶまれる。このサミットをどのように定義付け、いかなる目的の下に開催するのか。これを明確に示すことがこの全国学生まちづくりサミットを継続的に開催していくにあたって一番の課題であり、今後の命運を握っているのかもしれない。

愛知県新城市／愛知県東栄町と愛知大学との連携･協力協定締結記念シンポジウムを開催

去る9月30日(日)に愛知大学豊橋校舎記念会館にて「愛知県新城市／愛知県東栄町と愛知大学との連携･協力協定締結記念シンポジウム」を開催した。新城市や東栄町をはじめとした多くの中山間地域で抱えている共通課題を解決するために「小さな自治」という視点で取り組んでいくきっかけとなることを目指したこの企画は、第1部で宮崎県西都市の消滅した集落を舞台に、様々な思いや訴えを描いた映画「寒川」の上映会を行った。

さらに第2部のパネルディスカッションではテーマを「小さな自治が日本を変える」とし、パネリストに堀有三氏（映画「寒川」総合プロデューサー）、穂積亮次氏（愛知県新城市長）、森田昭夫氏（愛知県東栄町長）、松島貞治氏（長野県泰阜村長）、田村幹洋氏（(社)奥三河ビジョンフォーラム理事長）、小原侃之輔氏（特定非営利活動法人がんばらまいか佐久間顧問）、黍嶋久好氏（センター上席研究員）を迎え、佐藤元彦センター長がコーディネーターを務めた。パネリストは中山間地域に関わる市町村長や公共機関、NPOの関係者であり、それぞれの地域で抱えている課題に対してどういう取り組みをしようとしているのかなどの

意見交換を中心に討論をすすめた。

時間の関係でフロアとの意見交換などを行うことができなかったため、アンケート形式で参加者の意見をシンポジウム終了後に集約した。その結果、映画「寒川」については多くの方から「中山間地域の現状がわかった」や映画の「訴えが伝わってきた」など感想が寄せられ、パネルディスカッションについても肯定的な感想･意見が多くみられ、大変好評であった。

今回のシンポジウムの成果は、参加者の中山間地域に対する関心がこれまで以上に高まり、そうした地域のことについて考え直す機会となったことであろう。パネルディスカッションで具体的に踏み込んだ中山間地域の課題解決策の議論までに展開することができなかった点は心残りであったが、「小さな自治」という視点でのセンターの取組みに対する評価と今後の期待が参加者からうかがい知れたことは、大変有意義であった。

七郷一色ウィークエンドセミナー本年度も開催

昨年９月からスタートした新城市七郷一色地区でのウィークエンドセミナーは、2007年度も継続して開催されている。これは、愛知大学、豊橋技術科学大学、新城市、地元住民が協働ですすめる事業で、2007年度は年間６回のセミナーを開催することにし、愛大と技科大とが交互に講師を派遣する。

本年度第１回は、４月21日（土）に岩崎正弥経済学部教授の「中山間の“自治”を考える～七郷一色の履歴書づくり～」をテーマに行われた。岩崎氏は、「自分たちの地域の進むべき方向は自分たちで決める能力と責任をもつことが“自治”である」とし、七郷一色の履歴書をつくってはどうかと問いかけ、いくつかの資料を提示された。履歴書づくりは、記憶を掘り起こし、記憶を共有する、つまり過去に学んで、未来を構想することにつながるものであり、こうした取り組みが“自治”を育てることになると話された。話の後、参加者は４つのグループに分かれてグループワークを行った。

第２回は６月17日に豊橋技術科学大学の担当で開催され、第３回のセミナーは７月21日（土）に湯川治敏経済学部准教授にお願いし、「生活の中のスポーツ」をテーマに行われた。湯川氏は、力と速度、フォークボールはなぜ落ちるか、トリプルアクセスの秘密は、など身近なテーマを選び、実際にからだを使って説明されたほか、ピンポン球や糸巻きを使った実験を見せながら｢科学的な視点｣を加味すればさらにスポーツが楽しくなると話され、参加者は興味深く聞き入っていた。

この日は、セミナーのあと七郷一色地区住民の「納涼会｣が開かれ、本学と技科大の教職員、学生も参加し、地域住民と懇談しながら、ビンゴゲームなど楽しいひとときを過ごした。

三遠南信コミュニティカレッジ「三遠南信みちの魅力を考える」を開講

去る9月22日から、三遠南信地域の「みち」の魅力を再発見し、その魅力を地域づくりに結びつけるための公開講座が、国土交通省東海幹線道路調査事務所との連携の下にスタートした。第1回の講座に先立って開講式が催され（写真）､長田真一・国土交通省東海幹線道路調査事務所長、および本学の黒柳孝夫・教学担当副学長があいさつを行った。引き続いて、長田所長より「日本における社会資本形成と道路行政」と題して講義があり、行政マンやNPO法人関係者を含む24名の受講者が熱心に耳を傾けていた。9月29日には、藤井芳廣・国土交通省東海幹線道路調査事務所調査課長より「三遠南信のみちづくり」の講義が、また、10月13日には「『みち』と地名文化」と題す

る講義が原董・伊那谷地名研究会会長から、それぞれ行われた。また、この合間を縫って、木下利春・秋葉街道を愛する会副会長と松田不秋氏の両名による名ガイドの下に、飯田市上久堅にてエクスカーションも実施された（写真）。

この講座は、残りの3講座（以下）を11月10日まで続け、受講生には修了証書が授与される。

10月20日　講師:中野 眞氏(NPO法人三遠南信アミ理事･中小企業診断士･静岡大学大学院客員教授)
テーマ:「地域の宝物を『見つける』、『磨く』、『魅せる』」

10月27日　講師:黍嶋久好氏(本センター上席研究員)
テーマ:「小さな自治とみちの力」

11月11日　講師:藤田佳久氏(愛知大学文学部教授)
テーマ:「歴史街道ネットワークと飯田線」

東栄町地域振興アドヴァイザー派遣始まる

東栄町が2006年度に「元気な地域づくり支援事業」を創設し、事業展開するために、各区からの要望に応じて、専門的スタッフを派遣する業務を進めている。愛知大学では、東栄町の要請に応じて、三遠南信地域連携センターに「地域づくりアドヴィザー制度」をスタートさせ、本学の教員、研究所員、研究員等の20名が登録をしている。

東栄町への具体的な派遣は、2007年度に入ってからであり、東栄町中設楽地区、月地区、三輪地区の三ヶ所である。

中設楽地区には、5月25日、8月19日に経済学部岩崎正弥教授、三遠南信地域連携センター黍嶋久好上席研究員を派遣した。中設楽地区は、地域づくり推進協議会(元気城山)を組織して、話し合いと地域を知る学習を通して、中設楽地区の元気創出のための計画づくりを進めている。

月地区には、7月3日に経済学部蒋湧教授、三遠南信地域連携センター黍嶋久好上席研究員、三遠南信地域連携センター暁敏RAを派遣した。月地区は、月まちづくり協議会を組織し、閉校となった月小学校の利活用、地区内・組内の強み、弱みの課題から活動計画作りに取り組んでいる。

三輪地区には、7月19日に先行派遣として、三遠南信地域連携センター黍嶋久好上席研究員を派遣した。三輪地区でも「いきいき三輪」まちづくり協議会が組織されている。この地区は、愛知県のモデルコミュニティー活動推進地区指定を受け20年余の地域活動の実績をもつ地区でもある。先行派遣では、他地域の事例を紹介した。

公開シンポジウム「中山間地域の維持と活性」に参加して

豊橋研究支援課主幹　山　本　晃　司

8月20日豊橋グランドホテルにて開催された県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン研究会の公開シンポジウム「中山間地域の維持と活性」に出席した。このシンポジウムでは基調講演「中山間地域再生、GISを活用した持続的な地域経営」とパネルディスカッション「中山間地域の持続性に求められるもの ー森林環境とソーシャルキャピタルの視点からー」の2部構成により問題の提起があった。

基調講演では、島根県中山間地域研究センター地域開発グループの藤山氏から島根県の取り組み状況につき、中山間地域の占める割合、人口増加率と高齢化率の比較、ある村における農地山林の相続状況等について報告があった。また、パネルディスカッションでは、行政の立場、NPO、学の立場各2名の計6名により意見交換がなされた。

このシンポジウムにおいて特に感じた点について以

下に記したい。

①「中山間地域の維持と活性」は、何のために必要なのか、だれのために行うなのか、そんな素朴な疑問をもった。また基調講演後の質疑の中で、中山間地域の住民の生活が不便なら、都市部に移住すればよいのではないかとの質問があった。少々荒っぽい意見であるが、多少なりともそんな気持ちを持っている人がいるのではないか。

②中山間地域は都市部と比較し高齢化率が高いと言われているが、このことは半面出生率が低いと考えられないか、すなわち嫁不足の問題を抜きには考えられない。子供が多くいれば、高齢化率が下がるし、活気のある地域になるのではないか。

③山林・農地の荒廃の問題提起がされ、山林の相続時において境界を認知しているのは3割強であるとの報告があった。山林は2〜3年に1回程度は巡回しないと、樹木の状況の変化により確認するのは困難である。境界は不規則形状が多く、公図を見ても現地と合致しないし登記簿上地番・面積が明記されているだけである。

また林業をベースに活性化を図るとしても今個人の力では経費面で不可能である。伐採すればその跡地に植林し、下刈り等をしなければ樹木は育たない。

最後に、過疎化の要因として特に社会構造の変化(建設資材・燃料等の変化により、山の資産価値が無くなった)により生活基盤が弱体化し、これと連動し人の心も変化した。

その結果過疎化が生じてきたと思われる。現在中山間地域に定住している人たちが抱いているのは、先祖代々の土地を自分の代で荒廃させることはできないという気持ちと生まれ育った地域への愛着心だけだと思う。今後相続時等においてそのような気持ちが薄れ、さらに過疎化・土地の荒廃が進むのではないか。くい止めるには、安定した現金収入と地域連帯(人の心)を親密化し活性化を考えることが必要であろう。

CENTER NEWS

地域づくりサポーターの活動から

3年目からみるこれからの売木村活動

経済学部3年　村　上　貴　裕

「私たちは学生として売木村にどう関わっていけるのか。」今年度になり私たち売木村事業メンバーはこのことについて考えてきました。今年度の活動実績は2007年5月18日、19日の2日間で売木村へ行き(有)ネットワークうるぎの方々のご指導の下、田植え作業をさせていただきました。そして2007年7月16日の草取り作業が今年度の主な売木村においての私たちの活動です。今までの活動において売木村役場の方々やネットワークの方々には大変お世話になりました。私たちサポーターは普段の大学生活では味わうことのできない貴重な体験をさせていただくことができました。これからもこの関係を継続させていきたいです。

今までやってきたことも重要ですが、私たちはずっとこの活動だけでよいのか、もっと積極的に売木村の住民の方々との直接の交流はできないだろうかということを思い始めるようになりました。なぜなら私たちの今までの活動において十分に住民の方々とお話しや、一緒になって作業する機会が少なかったと感じたからです。そこで今後の方針として私たちサポーターが住民の方々のお宅に直接出向き、その時に農業やその他のお手伝いをさせていただきたいと思います。このことをきっかけに様々なお話しを聞かせていただき、売木村のことについて一緒に考えていきたいと思います。そして私たちサポーターは一人でも多くの売木村住民の方と親密な関係を築けるように努め、どうしたら住民の方がより住みやすい売木村になっていくのかを考えていきたいです。そしてこれからも売木村との交流が続いていくようにしていきたいです。

アフタースクール事業をはじめて

大学院国際コミュニケーション研究科 修士2年　加　藤　千　尋

豊橋市には現在2万人弱の外国籍の人々が住んでおり、内1万2千人がブラジル国籍の人々である。多くの外国人が住んでいる豊橋市をはじめとする地域で、彼らを地域の生活者として捉えた「地域の国際化」の取り組みが進められている。

今年度から地域づくりサポーターでは活動の一環として豊橋市が行う外国籍児童への学習支援「外国籍児童アフタースクール事業」に参加した。並行して外国人が集住する他の自治体の多文化共生政策、特に教育に対する政策の聞き取り調査も行い、この学習支援の経験や調査研究の結果を基に大学生として何か提言をすることができないかと考えた。学習支援は7月から8月に岩田校区、岩西校区など市内6ヶ所で行われ、愛知大学をはじめとする市内3大学学生、地域のボランティアの方々などが参加して各校区で現職の先生方を手伝って日本語教育や夏休みの課題などの支援をするという内容であった。

サポーターからは10名が参加し、感想として「頼ってくれる児童が日に日に増えて嬉しく思った。」などの意見が多くみられ、各々充実していたものであったと感じられた。そして豊橋市の今回の事業の課題も話し合われた。

先日本学で開催された「全国学生まちづくりサミット2007 in豊橋」では、これまでの事業での取り組みや課題や提言の概要を中間発表という位置づけで発表を行った。今後は活動を続けると同時によりよい提言をまとめてゆくため調査研究を継続し、豊橋市へ報告する予定である。今後ともアフタースクール事業をよろしくお願いします。

◇ 三遠南信地域連携センター活動記録（2007.4～2007.9）

月	日	曜日	研究会・委員会等名	会　場	出席者・概要
4月	12日	（木）	運営委員会（07-1）	センター事務室	
	21日	（土）	三河コンヴェクションアカデミー第4回ウィークエンドセミナー	新城市鳳来地域間交流施設	テーマ:『地域の「自治」を考える』 （講師）岩崎『中山間地の「自治」を考える』 黍嶋、岸本、サポーター（加藤千、村田）
	26日	（木）	運営委員会（07-2）	センター事務室	
5月	8日	（火）	第1回「地域づくりガイドライン研究プロジェクト委員会」	研究館1階 第3会議室	＜プロジェクト委員＞ 吉井弘和（農山漁村文化協会東海支部） 原田敏之（NPO法人穂の国森づくりの会） 三宅淳子（NPO法人三遠南信アミ） 佐藤センター長、岩崎、黍嶋、佐藤正、暁
	10日	（木）	運営委員会（07-3）	センター事務室	
	12日	（土）	「地域づくり共同提案事業」2006年度成果報告会及び2007年度募集説明会	本館5階 第3会議室	
	19日	（土）	第1回「GISデータベース構築研究プロジェクト委員会」	6号館 4階 642教室	＜プロジェクト委員＞ 西尾美徳（株式会社カナエジオマチックス） 齋藤兼次（愛知大学大学院非常勤講師） 有薗、宮沢、湯川、龍、蒋、平川
	19日 20日	（土） （日）	売木村プロジェクト　田植え作業	長野県売木村	（参加者）黍嶋、岸本 サポーター（片野、彦坂、堀田、村上、村田、山口）
	24日	（木）	運営委員会（07-4）	センター事務室	
	25日	（金）	平成19年度東栄町地域づくりアドバイザー派遣 「中山間地域の自治を考える・中設楽の履歴書作り」	東栄町・中設楽地区	アドバイザー:岩崎、黍嶋、暁、サポーター（村田、彦坂）
6月	1日	（金）	県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン研究会　総会	ホテルアソシア	センター長、黍嶋、近藤
	4日	（月）	運営委員会（07-5）	センター事務室	
	5日	（火）	第2回「地域づくりガイドライン研究プロジェクト委員会」	研究館1階 第3会議室	＜プロジェクト委員＞ 吉井弘和（農山漁村文化協会東海支部） 原田敏之（NPO法人穂の国森づくりの会） 三宅淳子（NPO法人三遠南信アミ） 佐藤センター長、岩崎、蒋、黍嶋、岸本
	9日	（土）	第1回「地域づくり・地域経営評価システム開発研究プロジェクト委員会」	本館5階 第2ミーティングルーム	＜プロジェクト委員＞ 池田豊人（国土交通省） 高井克明（国際連合地域開発センター） 稲垣英樹（安城市役所） 小原侃之輔（NPO法人がんばらまいか佐久間）

（次ページにつづく）

月	日	曜日	研究会・委員会等名	会　場	出席者・概要
6月	9日				山本春美（とよがわ流域大学修了生） 佐藤正之（豊橋技術科学大学CCR「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」研究会非常勤研究員） 黍嶋、岸本、暁
	16日 17日	（土） （日）	「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」現地調査①	浜松市天竜区熊地区	黍嶋、暁、佐藤正之（豊橋技術科学大学CCR「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」研究会非常勤研究員）
	19日	（火）	食農産業クラスター推進協議会　設立総会・記念講演会	豊橋サイエンスコア	センター長代理として黍嶋参加　PR展へセンターの運営体制・事業の概要を記した大型パネル、報告書を出展。
	20日	（水）	とよがわ流域大学修了生共同提案事業聞取調査	新城市七郷一色地区	岸本、岩崎、平川、加治、サポーター（彦坂）
			第2回「GISデータベース構築研究プロジェクト委員会」	6号館 4階 642教室	＜プロジェクト委員＞ 西尾美徳（株式会社カナエジオマチックス） 齋藤兼次（愛知大学大学院非常勤講師） 有薗、井口、宮沢、湯川、蒋、岩崎、黍嶋、平川、岸本、加治
	21日	（木）	第1回「地域づくりアドバイザー」会議	研究館1階 第1・2会議室	＜委員＞伊村吉秀、鈴木源一郎、田中昌美 センター長、岸本、岩崎、蒋、平川、暁、加治
			運営委員会（07-6）	センター事務室	
	22日	（金）	東栄町「連携・協力に関する協定」調印式	本館5階　第3会議室	武田学長、黒柳副学長、センター長、
	23日 24日	（土） （日）	「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」現地調査②	浜松市天竜区熊地区	黍嶋、暁、佐藤正之（豊橋技術科学大学CCR「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」研究会非常勤研究員）
	28日	（木）	東三河データブック報告会	研究館1階　第3会議室	新井野、西村、和田、センター長、黍嶋、平川、暁
	30日	（土）	第2回「地域づくり・地域経営評価システム開発研究プロジェクト委員会」	本館5階 第4会議室	＜プロジェクト委員＞ 池田豊人（国土交通省） 高井克明（国際連合地域開発センター） 稲垣英樹（安城市役所） 小原侃之輔（NPO法人がんばらまいか佐久間） 佐藤正之（豊橋技術科学大学CCR「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」研究会非常勤研究員） 武田圭、センター長、黍嶋、蒋、岸本、暁、サポーター（村上、彦坂）
7月	2日	（月）	運営委員会（07-7）	センター事務室	
	3日	（火）	平成19年度東栄町地域づくりアドバイザー派遣	東栄町・月地区公民館	アドバイザー：蒋、黍嶋、暁、サポーター（木全）
	4日	（水）	GIS Day in 愛大 2007	6号館 4階 642教室	「GISの基本知識と最新動向」 齋藤兼次（愛知大学大学院非常勤講師） 「GISと三遠南信地域連携センターの取り組み」　蒋 「GIS体験（基本操作と地図データの使い方）」　平川
	6日 7日	（金） （土）	とよかわ産業フェア2007へ出展	豊川市総合体育館	出展内容：「簡易型GISを活用した地域情報の共有と蓄積手法」 平川、加治が参加し、センター（愛知大学）のPRを行った。
	7日	（土）	同窓会浜松支部総会	浜松名鉄ホテル	センター長の代理として黍嶋出席
	12日	（木）	運営委員会（07-8）	センター事務室	
	15日 16日	（日） （月）	全国都市再生まちづくり会議2007	工学院大学 新宿キャンパス	平川
	16日	（月）	売木村プロジェクト　草刈・現地調査	長野県売木村	（参加者）黍嶋、岸本 サポーター（片野、彦坂、村上、山口）
	19日	（木）	東三河データブック事前打合せ	研究館1階　第3会議室	センター長、黍嶋、平川、暁
			平成19年度東栄町地域づくりアドバイザー派遣	東栄町三輪地区	アドバイザー　黍嶋
	20日	（金）	とよがわ流域大学修了生共同提案事業聞取調査	新城市七郷一色地区	岸本、平川、加治、サポーター（加藤千）
			新城市「連携・協力に関する協定」調印式	本館5階　第3会議室	武田学長、黒柳副学長、センター長
	21日	（土）	三河コンヴェクションアカデミー第6回ウィークエンドセミナー	新城市鳳来地域間交流施設	テーマ：『生活の中のスポーツ』 （講師）湯川　終了後、納涼会 岸本、近藤、山本、平川、加治、サポーター（加藤千、片野、彦坂）
	23日 24日 25日	（月） （火） （水）	地理情報システム学会　GIS技術教育認定 空間情報デザインスクール「空間情報規格スタジオ」修了認定	東京大学柏キャンパス	蒋
	24日	（火）	第3回「地域づくりガイドライン研究プロジェクト委員会」	研究館1階　第3会議室	報告：山田政俊（とよがわ流域大学修了生） ＜プロジェクト委員＞ 吉井弘和（農山漁村文化協会東海支部） 原田敏之（NPO法人穂の国森づくりの会） 三宅淳子（NPO法人三遠南信アミ） 岩崎、蒋、黍嶋、岸本、平川、加治
	26日	（木）	運営委員会（07-9）	センター事務室	
	31日	（火）	三遠南信地域連携ビジョン・第3回検討委員会	長野県飯田市消費生活センター	センター長
8月	1日	（水）	県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン研究会 「ソーシャルキャピタル・社会力評価部会」	研究館1階 第1・2会議室	＜委員＞ 岩崎、武田、黍嶋 松島史朗（豊橋技術科学大学准教授） 谷　武（豊橋技術科学大学助教） 西川祐司（愛知県企画振興部地域振興課主査） 塚平賢志（飯田市企画部企画課行政経営係長）＊代理出席 竹内義明（静岡県西部地域支援局主査）＊代理出席

（次ページにつづく）

月	日	曜日	研究会・委員会等名	会　場	出席者・概要
8月	1日	(水)	「中山間地定住促進・地域再生部会」		佐藤正之(豊橋技術科学大学CCR「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」研究会非常勤研究員) <委員> 黍嶋、岩崎、樫村、暁 松島史朗(豊橋技術科学大学准教授)、谷　武(豊橋技術科学大学助教) 加藤博俊(環境省自然公園指導員)、大平展子(NPO法人夢未来くんま事務局長) 塚平賢志(飯田市企画部企画課行政経営係長)＊代理出席 竹内義明(静岡県西部地域支援局主査)＊代理出席 瀬野尾充彰(新城市鳳来総合支所地域振興課主任) 佐藤正之(豊橋技術科学大学CCR「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」研究会非常勤研究員)
	3日	(金)	GIS Day in 関西 2007 「地域づくり力」から成熟した住民参加型社会の確立に向けて	奈良大学	蒋、平川
	9日	(木)	2007年度第1回東栄町・愛知大学地域連絡協議会	研究館1階　第3会議室	黒柳副学長、センター長、黍嶋、各務(企画・広報課)、近藤、山本 東栄町3名
	10日	(金)	東栄町企業懇談会	東栄町	センター長、黍嶋
	19日	(日)	平成19年度東栄町地域づくりアドバイザー派遣	中設楽生活改善センター	アドバイザー:岩崎、黍嶋
	20日	(月)	とよがわ流域大学修了生共同提案事業聞取調査	新城市七郷一色地区	岸本、平川、加治、サポーター(加藤ｴ、彦坂)
	20日	(月)	県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン研究会 平成19年度公開シンポジウム「中山間地域の維持と活性」	豊橋グランドホテル	岩崎、黍嶋、岸本、山本、平川、暁、加治、サポーター(加藤ｴ、彦坂)
	29日	(水)	第3回愛知県フレンドシップ継承交付金事業検討会	東栄町教育委員会	センター長、サポーター(加藤ｴ、張)
9月	1日	(土)	第3回「地域づくり・地域経営評価システム開発研究プロジェクト委員会」	研究館1階　第3会議室	<プロジェクト委員> 高井克明(国際連合地域開発センター) 稲垣英樹(安城市役所) 小原侃之輔(NPO法人がんばらまいか佐久間) 佐藤正之(豊橋技術科学大学CCR「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」研究会非常勤研究員) センター長、黍嶋、蒋、岸本、暁、
			地域づくりガイドライン研究会／地域づくりガイドライン・地域経営評価システム開発研究会／GISデータベース研究会　3事業合同公開研究会 「まちづくりオーラル・ヒストリー」の活用	研究館1階 第1・2会議室	報告:佐久間康富(早稲田大学教育学部非常勤講師) ｺﾒﾝﾃｰﾀｰ:稲垣英樹(安城市役所) 三宅淳子(NPO法人三遠南信アミ)
	6日 7日	(木) (金)	全国学生まちづくりサミット2007in豊橋	記念会館3階　小講堂 5号館 豊橋中心市街地 ｶﾘｵﾝﾋﾞﾙ6階 多目的ﾎｰﾙ	開会式 参加大学による事例発表 フィールドワーク グループワーク・成果発表・学生まちづくり宣言in豊橋　閉会式
	17日	(月)	「GISデータモデル研究グループ」2007年度第1回目の研究会	研究館1階　第3会議室	西尾美徳(株式会社カナエジオマチックス) 齋藤兼次(愛知大学大学院非常勤講師) 蒋、黍嶋、平川
	20日	(木)	とよがわ流域大学修了生共同提案事業聞取調査	新城市七郷一色地区	岸本、平川、加治、サポーター(木全)
	20日	(木)	運営委員会(07-10)	センター事務室	
	22日	(土)	三遠南信コミュニティカレッジ「みちの魅力を考える」開講式及び第1回講座	研究館1階 第1・2会議室	開講挨拶:黒柳副学長、長田所長 テーマ:日本における社会資本形成と道路行政 講師:長田真一(国土交通省東海幹線道路調査事務所長)
	26日	(水)	2007年度第1回新城市・愛知大学地域連絡協議会	研究館1階　第3会議室	黒柳副学長、センター長、石原、各務、近藤、山本、黍嶋　新城市5名
	27日	(木)	運営委員会(07-11)	センター事務室	
	29日	(土)	2007年度第1回三遠南信地域連携センター会議	本館5階 第3・4会議室	
			三遠南信コミュニティカレッジ「みちの魅力を考える」 第2回講座～三遠南信のみちづくり～	本館5階 第3・4会議室	テーマ:三遠南信地域のみちづくり 講師:藤井芳廣(国土交通省東海幹線道路調査事務所調査課長)
	30日	(日)	愛知県新城市／愛知県東栄町と愛知大学との連携・協力協定締結記念シンポジウム 第1部:映画「寒川」上映会 第2部:パネルディスカッション「小さな自治が日本を変える」	記念会館3階　小講堂	パネリスト 堀有三(映画「寒川」総合プロデューサー) 穂積亮次(愛知県新城市長) 森田昭夫(愛知県東栄町長) 松島貞治(長野県泰阜村長) 田村幹洋((社)奥三河ビジョンフォーラム理事長) 小原侃之輔(NPO法人がんばらまいか佐久間顧問) 黍嶋 コーディネーター:センター長　総合司会:平川

＝編集後記＝

全国各地で様々な地域づくりに取り組む学生が中心となり、第2回全国学生まちづくりサミットが、9月6日（木）から7日(金)まで、愛知大学豊橋校舎をメイン会場として、開催されました。これは、昨年11月の東北公益文科大学のおける学生まちづくりフォーラムに続くものです。

9月30日（日）には、愛知県新城市・愛知県東栄町と愛知大学との連携・協力協定締結記念シンポジウムが、愛知大学豊橋校舎にて開催されました。

10月10日（水）には、南信州広域連合と愛知大学との連携・協力に関する協定が締結されました。三遠南信地域連携センターでは、三遠南信地域及び県境の活性化、再生、発展に貢献するため、連携・協力をより一層推進していきます。(K)

編集・発行

愛知大学　三遠南信地域連携センター運営委員会
〒441-8522　愛知県豊橋市町畑町1-1
Tel : (0532)47-4157　Fax : (0532)47-4576
URL : http://taweb.aichi-u.ac.jp/sen-center/
Email : sen-center@ml.aichi-u.ac.jp